

芦生 4年生

グリーンワールド実施に向けての取り組みを見てみましょう！

【ステップ① 熟議から】

地域、学校、保護者が一緒になって子どもたちの未来を考えるワークショップ(熟議)を開催し、これまで6回の協議を重ねてきました。毎回のように話題になったのは、美山が誇る大自然、芦生の森での体験についてです。子どもたちに芦生での自然体験をぜひとも実現させたいという思いが共有されました。



【ステップ② 打ち合わせ】



京都大学芦生研究林フィールド科学センターと芦生もりびと協会、美山小学校、地域コーディネーターによる初めての打ち合わせを昨年度末に開催しました。4年生の学習の中でどのような学びにつなげていけるだろうか、何を感じてくれるだろうかと思像を膨らませながら、プログラム内容を協議しました。

【ステップ③ 下見】

打ち合わせをもとに、芦生もりびと協会によるプログラムができあがると、4年生は授業の中で事前学習をしました。その後、担任の先生を含む小学校の教員、当日ガイドをお世話になるネイチャーガイド、芦生研究林の職員の皆さんとともに実際にルートを歩いて確認。どのポイント



で何を体験できるかなど、また時間調整を確認しながら歩きました。

【ステップ⑤ プレゼンテーション】



グリーンワールドの後、南丹市文化博物館での企画展「芦生の森」も見学し、これまでの学習をまとめて全校に発表しました。実際に見て、聞いて、感じた体験をほかの児童に生き生きと伝える様子がとても印象的でした。自分の体で感じたからこそできた発表でした。



【ステップ⑥ ふりかえり】

過去30年以上にわたって実施されてきた芦生の森の体験との違いは、このフィールドワークを学校と地域とが一緒になって計画し、取り組んだことです。次年度へ向けてさらに充実した内容にするため、学校と地域がともに振り返りをしてさらに充実したものにしていきます。

いよいよ本番当日！5月23日

【ステップ④ グリーンワールド】



3つのグループに分かれ、事前学習の中でそれぞれに決めたミッションを掲げていざ芦生の森へ！

子どもたちにとって芦生の森は、当たり前前の自然のようでありながら、見るもの触るもの、体験することひとつひとつが新しい発見の連続です。

大きな由良川の最初の一滴が流れ出す最源流を見ると、思い描いていたも

のとは異なる源流のイメージ、自然の力に驚きを感じたことでしょうか。杉尾峠からは、由良川が流れつく先の広い海を眺めることができました。



カラフル 2年生

野菜を地域の方に教えてもらって育ててみました！

【ステップ① きっかけ】

2年生は生活科の学習で野菜を育てることになりました。そこで美山生産者の会の農家さんにお世話になり、今地域の皆さんが力を入れて取り組んでおられる「カラフル野菜」のプチトマトなどを植えることにしました。

【ステップ③ 現場を見よう】

まちたんけんを兼ねて4つのグループに分かれて、ふらっと美山の店舗、生産者木戸さん・岩瀬さん、生産者さんに調理の仕方を教えていただきました。それぞれ写真やビデオを撮ったり、初めて会う方にも質問をしたり、インタビューにも挑戦しました。



ふらっと美山には
カラフル野菜の
コーナーが
あったよ。



あうちでも
作ってみたいな！

店舗に置いてもらったよ。
カラフル野菜たくさん
売れるといいな！



【ステップ② 植えてみよう】



美山生産者の会、澤田さん、岩瀬さん、市原さんからカラフル野菜についてのお話を聞いた後、プチトマトの植え付け、プランターに「ふだんな」通称にじいろ菜と言われる葉物の野菜の種をまきました。



生産者さんと
同じ気持ちで、
「おいしくな～れ」を
合言葉に植えたよ！

【ステップ④ 伝えよう】

グループごとにそれぞれが調べてきたことを発表しました。学校中の先生や学校運営協議会の方にも見てもらいました。クイズのほかにも、生産者さんの役と見学に行った児童の役になって、インタビュー再現形式で発表するなど、グループごとにいろいろ工夫ができました。見る側も、聞く側もワクワクできる発表でした。おかげで、生産者さんの立場になって考えることもできました



どうやったら
聞いている人
に、うまく伝
わるかな？

【ステップ⑤ 書いてみよう】

カラフル野菜新聞を作りました。大勢の人に見てもらえるように、分かりやすく、丁寧に書くよう気を付けて、大きな壁新聞の他にも A4 チラシサイズの新聞と、カラフル野菜の魅力を伝えるポップを作成して、ふらっと美山へ届けました。

学校運営協議会って？

美山小学校は学校運営協議会が設置されたコミュニティスクールです

美山小学校の学校運営協議会は、5つの地域からそれぞれ子育てや教育に関心のある方、美山まちづくり委員会、美山小学校PTA役員、美山小学校地域コーディネーター、美山小学校教職員、有識者、美山中学校地域コーディネーター、美山中学校学校評議員、美山中学校教職員によって構成されています。

運営協議会では地域の目指す子ども像を話し合い、それを実現するための取組について協議します。

美山クラス

美山クラスは美山小学校PTA、美山中学校PTA、美山まちづくり委員会共催のもと、「子どもとともにある地域づくり」の視点から、自分たちが暮らす美山町を知る、地域の魅力を再発見することをコンセプトに、地域と学校、保護者が一緒になって考えたプログラムとして、2年前から始まりました。1年目は大野地区で大野ダムの歴史についての学習と劇団MWOの演劇鑑賞、2年目は宮島地区で稲刈り作業体験と、ウェブを使ったデンマークの学校との国際交流でした。

美山小学校の学校運営協議会では今年度から、この活動を地域学校協働活動のひとつとして取り組みます。

今年の美山クラスは
10月22日(火・祝)
かまどでご飯と八ヶ峰登山です
詳しくは2学期に配布予定のチラシをご覧ください



「美山クラス」が地域学校協働活動のひとつになりました!

地域学校協働活動とは?

運営協議会や熟議(地域みんなで美山の子どもたちの未来を考えるワークショップ)で共有した「目指す子ども像」の実現に向けて、地域・家庭・学校みんなで一緒に取り組む活動のことです。



沖縄から美山学の視察に来られました!



沖縄県伊江村立伊江小学校から2名の先生が来られました。6年生の授業で伊江小学校がある伊江島のお話を聞かせていただきました。山に囲まれた美山とは対照的に、青い海に囲まれた伊江島では特産品も美山とは違うものがありました。美山小学校では5年生が地域の方の協力のもと稲作に挑戦してお米を販売していますが、伊江小学校では、島らっきょうを生産して販売しているそうです。生産販売だけでなく、ドレッシングなどの加工品にも取り組まれています。美山小学校が美山学で2年前に取り組んだ美山ブランドシールの取組を参考にして自分たちでシールを作成し、販売促進ブランディングにも挑戦しているそうです。美山学が海を渡ってはるか遠くの小学校へも影響を与えているというのは驚きです! 今回の沖縄の先生方の訪問は私たちにも良い影響を与えてくださいました。子どもたちと先生もすっかり仲良しです。今後も学校や子どもたちを通して交流ができればよいと思います。



かやぶきは美山のお宝! 3年生

【ステップ① 匠の話を聞いてみる】

3年生の総合的な学習の時間に取り組んでいるのは、「美山のお宝 WORLD! お宝さがしに Let's Go!」。今年の3年生が目をつけた「お宝」とは、かやぶき民家です。

7月2日に、かやぶき屋根職人をされている(株)茅葺き「ぶんな」の金谷さんに学校へ来ていただき、かやぶきについて教えていただきました。最初に教室で、かやぶきがどんなふうになっているのか、材料のことなどかやぶきについてのお話をたくさん聞かせて



いただきました。その後、体育館で実際にかやぶきを葺く作業を体験させていただきました。

準備だけでも、ものすごい作業量ですが、さすがに職人さんです。手際よくあっという間に組み上げられ、かやぶき屋根の構造ができあがりました。いつもは見上げる位置にある屋根が、目の前に現れました。話で聞くだけでは難しいこともあります。こうして実際に体験してみると、子どもだけでなく大人もかやぶきの魅力をあらためて感じました。職人さんの思いも伝わります。

【ステップ② かやぶきの里へ行ってみる】

7月4日、かやぶきの里へ行き、民俗資料館館長の中野さんにお話を聞きました。実際に見るかやぶき民家は、200年以上も前に建てられていて、その姿を今もとどめています。かやぶきを守るための苦労や、自然の素材を活かしたかやぶき民家の合理的な造りを見ると、かやぶき民家が美山のお宝である理由が分かったように思います。



そんなかやぶきの里を年間20万人以上の観光客が訪れ、今では外国人観光客の数が大変多くなっています。実際にかやぶきの里を訪れている観光客の方にインタビューしてみました。「なぜかやぶきの里へ来たのか?」「どこが良かったか?」など、外部の方の視点で美山の魅力を探りました。外国人観光客の方にも英語や中国語でインタビューに挑戦! 少し恥ずかしかったけれど、皆さんとても親切に丁寧に答えてくださいました。美山が好きで来られている方たちは、美山の子どもたちにも親切でした。



☆今後の予定☆

9月には5年生がホームステイで地域の方のお家で宿泊体験をします。今年も地域の皆さんとふれあい、暮らしの体験などに取り組みます。

HPで美山学の他、日々の子どもたちの様子も随時更新中です! ぜひご覧ください。

